

TOMOIKI PROJECT



プロジェクト
パンフレット
2016



TOMOIKI PROJECT

朝、鳥のさえずりで目覚めるとすごく気分がいいですね。森を歩いて緑の風を感じながら花や昆虫に出会い、新たな発見があると心がわくわく。歩いて、スポーツをして、仲間との何気ない会話を通して、心と体がどんどんはずんでいきます。夜、流星を見ることができたら、それはもうすごくラッキー！くわえて知的好奇心が満たされると幸せな日々といえるでしょう。人間の暮らしに自然とのほどよい距離感、心と体のバランスはとても重要なことです。

「地球規模で考え、足下(地域)から行動せよ(Think globally, act locally)」というのはよく知られたフレーズですが、現代において、「人と自然が共生する持続可能な社会」の構築はわれわれが考えるべき重要な課題となっています。2016年6月に本学で採択された「大学と地域が育む自然・人・共生(TOMOIKI)教育・研究事業(大学と地域が育むみどりと身体のハーモニー)」として、われわれは大学および地域(森、川、公園などのフィールド)で、「自然」・「健康」・「地域」・「共生」をキーワードにした16プログラムを実施しました(本冊子にはその一部を掲載)。

本プログラムにおいて地域のみなさまがいきいきと活動されただけでなく、本学学生のおおなる学びの場ともなりました。みなさまの声をストレートにうかがい、相互交流できたのはわれわれにとっても大きな収穫でした。

人と自然のつながり、人と人とのつながりを通して、大学と地域(人)をつなぐ知のリエゾンがさらに広がっていくことを願ってやみません。ご参加、ご協力いただいたみなさまに深謝いたします。

本プロジェクトを代表して 前迫ゆり

大阪産業大学人間環境学部生活環境学科/デザイン工学部環境理工学科(2017年4月開設)

本冊子の構成

2016年度の全16プロジェクトのうち、5つのプロジェクトを、学生と教員がダイジェストしてご紹介。さあ、あなたもページをめくって“TOMOIKI”体験！新しいライフスタイルへのヒントが見つかりますように。

自然
P3-4

地域の森を学ぶ・見る・繋がる

自然
P5-6

魚から見た河川環境

健康
P7-8

「歩く人。」in the Park

地域
P9-10

流星群を目と耳で観測しよう！

共生
P11-12

ガーデニング教室

P13-14

2016年度実施の全プログラム、担当教員、パートナーのご紹介

テーマ
自然

地域の森を学ぶ・見る・繋がる

- 1) 森の多様性を楽しむ
- 2) ドローンでネイチャーサイエンス

大阪には55カ所の生物多様性ホットスポットがあります。大学の東に位置する生駒山系は身近な自然です。「森の多様性を楽しむ」では歩いて植物を観察し、地域生態系の多様性に気づく楽しみを、「ドローンでネイチャーサイエンス」では、ナラ枯れ激しいむろいけ園地で、林冠を参加者がドローンで撮影！新しい生態研究の手法と自然の「知」を市民の方と共有しました。



大阪の生物多様性ホットスポット

大阪には金剛生駒山地、淀川、大阪湾などさまざまな生態系があり、多様性を育んでいます。その一方、アンダーユース、シカ、ナラ枯れ、地球温暖化など生物多様性劣化の危機も！



ホットスポットAランクの和泉葛城山のブナ林：地球温暖化の危機？！



生駒山系むろいけコナラ林のナラ枯れ (カシノナガキクイムシの拡散)



ぜんぶのホットスポットに行ってみたいな！

大阪府には8700種の動植物が記録されているんだって！



ドローンで撮影！むろいけ園地



室池周辺のコナラ林 (コナラの枯死が目立ちます)



飛んでる!!



ドローンでコナラ林の林冠を撮影！ナラ枯れの状況がわかります。



＼ご参加者の声／

はじめてのドローン操作だけど、すごく楽しい！（参加者のSさん、Iさん）

むろ池に生息する秋の在来植物



コウヤボウキ



ヤクシソウ



ヒヨドリバナ



ヨシノアザミ



コバノガマズミ



＼参加したゼミ生より／

卒論でナラ枯れや多様性を調査して、人と自然のつながりを考えるようになりました。人が生物資源の薪を利用しなくなったために、コナラが大きくなって、カシナガにアタックされやすくなったのですね。うーん。センセイ、自然って深いですね・・・



掛穂さんと花田さん

担当教員よりひとこと

身近な自然を歩いてみると動植物の息づかいが聴こえてきます。春夏秋冬、自然は姿を変え、長い時間をかけて動植物の生命を育みます。近年、拡散しているナラ枯れも、人間の暮らしが関係しているのかもしれない。

自然の恵みを楽しむために、人と自然のほどよい距離感(共生)が大切です。むろいけで、さまざまな植物を楽しみ、ドローンを使ってコナラ林冠をとらえました。



前迫ゆり

(生活環境学科／環境理工学科 (2017年4月開設))

魚から見た河川環境

～大和川の支流・石川の魚について学ぼう～

大和川の支流の石川には、川と海を行き来するアユや一升を川で過すフナ・オイカワなど、さまざまな魚が生息しています。「魚から見た河川環境」では、タモ網や投網を使って魚とりをして、とれた魚を観察しながら多様な魚類を育む河川環境について学びました。

魚とり&観察のポイント

「タモ網」を使おう!



タモ網は、子供から大人まで、誰でも魚とりを楽しむことのできる道具です。でも、上手にとるにはコツが必要です!!

魚を観察しよう!



とれた魚を実際に触ったりして観察しよう! 大きなコイやアユがとれるかな?

「投網」を使おう!



投網を使うと大きな魚もとれます。まずは陸上で上手に投げる練習をしよう!

大きくなれよ! /

とれた魚は最後に川へ放流しよう!



「魚から見た河川環境」レポート

●開催日時 2016年10月16日(日) 13:00-15:00
●開催場所 大和川の支流・石川下流域



- 13:00 石川河川公園 星の広場 集合 魚とりレクチャー
- 13:15 魚とり&観察
- 14:30 石川にすむ魚と河川環境の解説
- 15:00 とった魚の放流



タモ網を持って近くの川に行ってみよう!

＼ご参加者の声／

「魚から見た河川環境」に参加してどうでしたか?

川の水は冷たかったけど、石川には思った以上にいろんな魚がいることに驚きました。これからはたくさんの魚がすめるように川の環境を大切にしていきたいです。

担当教員より
ひとこと

今回の観察会は石川下流部のごく狭い範囲で実施しましたが、それでもアユやコイといった魚類が12種、また、スジエビやミナミヌマエビ、テナガエビといった甲殻類も確認できました。川の環境は多様で、瀬と淵、あるいは上流と下流ではすんでいる生きものに違いが見られます。河川環境の多様性が、川の生物多様性を育てているのです。

同じ川でも季節や場所によってどんな魚がみられるのか、タモ網を片手に近くの川に足を運んでみましょう。



鶴田 哲也

(生活環境学科/環境理工学科 (2017年4月開設))